第４学年○組道徳学習指導案

平成２７年　　月　　日（　　）第　時限

指導者　○　○　○　○

１　主　　題　美しい心を感じて（Ｄ－20)　感動,畏敬の念）

２ 教 材 名　おじいさんとタヌキ（出典　明るい心）

３ 主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

自然や音楽、物語などの美しいものだけでなく、人の心や生き物の行動を含めた気高さにも気付くようになるこの時期に、これらに触れて素直に感動する心を育てていくことが求められる。人の心の美しさ、自然のすばらしさなど美しいものや気高いものに触れる体験を積み重ねることによって、想像する力や感じる力がより豊かに育っていく。

感性や知性が著しく発達する段階であることを配慮して、児童が自然の美しさや人の心の気高さなどを感じ取る心をもっている自分に気付き、その心を大切にし、更に深めていこうとする気持ちを高めさせていきたい。

（２）児童の実態について

本学級は、４年生の中でも活発である反面落ち着きのない児童が多く集まっている。理科の月の観察では、中秋の名月の美しさやスーパームーンの神秘さに触れる機会があった。また、国語の「ごんぎつね」の学習では、登場人物の心の動きを感じ取ったり、情景描写の美しさを素直に味わったりした。しかし、中には素直に感じ取ることができない児童もおり、気になっている。

そこで、この時期に、人の心の優しさ温かさにふれ、それを尊敬し，人の行いとして美しいと感じ取らせ，人の行いの美しさ・気高さを大切にさせたい。

（３）資料について

本資料は、ある日、穴に落ちた子ダヌキを助けてくれたお礼に親ダヌキが町で働くおじいさんの息子に化けて大みそかにおじいさんに会いに行く話である。おじいさんが大変喜んだので、タヌキはそれから毎年大みそかに息子に化けて会いに行くようになる。やがて、おじいさんは年を取り、死が近いことを悟って最後に手紙を書く。同じ頃、タヌキも体が弱り、同じように手紙をおじいさんに書く。お礼のために毎年息子に化けておじいさんに会いに行くタヌキの気持ちと、息子は死んでしまったのに、だまされたふりを続けるおじいさんの優しい気持ちとの、互いを思いやる心の美しさに触れることができる資料である。

おじいさんやタヌキの行動について話し合い、心と心の通い合いの美しさを感じ取らせたい。そして、心の美しさについての考えを一層深めさせていきたい。

４ ねらい

○　おじいさんやタヌキの相手のことを思う優しさや温かさに触れ，心と心の通い合いの美しさを感じ取り，質問等で級友の感動内容から学ぶことを通して、行為の美しさ・気高さに感動する自分の　心に気付き，そのような気持ち・考えを育てる。

５　準　　備 （教）場面絵　フラッシュカード　ホワイトボード　ワークシート

６　「言葉を大切にし、自分の考えを伝え合う」との関わり

本時では、中心発問として「この話から伝わる心」を児童に問いていく。おじいさんとタヌキが書いた手紙を通して、「心と心の通い合いの美しさ」について考えを伝え合う。児童の多様な考えに対し、質疑応答をしながら話合いを深める。話合いの中で、「美しい心」についての価値を高めるとともに自分の考えを伝え合う力を身に付けさせていく。

７　学習過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学　習　の　流　れ | 教師の働き掛けと支援・留意点 | 評　　　価 |
| ５  (５)  導  入  ・  方  向  付  け | １　「美しい」ことについて話し合う。  △　「美しい」と感じたことは、どんなことだったでしょう。  ・　中秋の名月  ・　スーパームーン  ・　みんなの心がそろったとき  ・　一生懸命努力しているとき  ・　正直なとき | ○　目に見える美しさだけでなく、目に見えない美しさも思い出させる。  ○　今までの体験の中から発表し合い、価値の方向付けと本時の話合いへの意欲を高める。 | ○　「美しい」という見方で自分の体験を振り返ることができたか。  （発表・観察） |
| ３５  (40)  ね  ら  い  と  す  る  価  値  の  追  究  把  握  ・  自  己  の  生  き  方  の  自  覚 | ２　資料「おじいさんとタヌキ」を聞き、話し合う。  （１）おじいさんとタヌキのお互いへの思いについて話し合う。  △　おじいさんとタヌキはなぜ手紙を書いたのでしょう。  〈おじいさん〉  ・　最後にお礼を言いたかった。  ・　急にいなくなったらタヌキが心配するから。  ・　死んでしまうから謝りたい。  ・　タヌキが来てくれただけでうれしかった。  ・　手紙に残しておきたかった。  ・　タヌキに会いたかった。  〈タヌキ〉  ・　最後のお礼として。  ・　急に来なくなったらおじいさんがびっくりしてしまうから。  ・　おじいさんが待っているから。  （２）この話から伝わる心について話し合う。  ▲　この話からどんな心が伝わりましたか。  ア　相手を思う心  ・　やってもらったことよりももっと相手に喜んでもらいたい。  ・　体力を使うのにおじいさんのために毎年息子に化けて会いに行った。  ・　化けていたと分かっていてもだまされたふりを続けた。  ・　死にそうでも最後の力を相手のために使っている。  ・　お互いに思い合っている。  イ　優しい心  ・　野菜を分けてあげた。  ・　穴に落ちた子ダヌキを助けてあげた。  ・　化けていたと分かっていても優しく接してくれた。  ウ　感謝の心  ・　恩返しを続けている。  ・　死ぬ間際にお礼の手紙を書いた。  エ　愛する心  ・　おじいさんが息子を愛する心  ・　親タヌキが子ダヌキのことでお礼をしている。  （３）友達の発言で参考になったことや考えさせられたことを発表する。  △　友達の意見で参考になったことを発表しましょう。 | ○　資料を範読し、場面絵、出来事、会話等をフラッシュカードで示しながら、児童に資料の内容を再確認させる。  ○　手紙を書いた理由を考えさせることで、おじいさんとタヌキのお互いを思い合う姿をはっきりさせる。  ○　考えがもてたら、静かに起立させる。  ○　同じ考えのときは、着席させる。  ○　自分の考えに近い意見に挙手させる。  ○　児童の発言を肯定的に受け止める。  ○　違和感を感じる発言に愛しては、安易な「反対」を言わず「質問」をする約束にする。  ○　ある程度意見が出たら、質問や付け足しをさせたり、理由を尋ねたりし、話合いを深めていく。  ○　「美しい心」について考えを深めさせる。  ○　理由も説明させる。はっきりしないときは、更に詳しく説明させる。又は、別の  児童に説明させる。  ○　友達の意見を聞き、多様な価値観に触れることで自分の考えを深めさせる。  ○　ある程度意見が出たら、質問や付け足しをさせたり、理由を尋ねたりし、話合いを深めていく。  ○　どの児童も自分の考えを持たせるために、自分の考えに近い意見に挙手させる。  ○　考えが変わった場合は、その理由も説明させる。  ○　級友から学んで変化・成長できたことを発表させることで、互いの成長を認め合わせる。友達のために役立てた自分のことも認め、自信につなげさせる。 | ○　資料の内容を理解できたか。（観察）  ○　おじさんとタヌキがお互いに相手を思いやっていることに気付くことができたか。  　　 （発表・観察）  ○　意欲的に発表することができたか。  　　 （発表・観察）  ○　友達の考えに共感することができたか。  　 （発表・観察） |
| ５  ○　心と心の通い合いの美しさを感じ取ることができたか。  （発表・観察）  (45)  ま  と  め | ３　今日の学習を振り返る。  △　今日の授業で、感じたこと学んだことを書きましょう。 | ○　自分の考えをもち発表できたか、友達の意見が参考になったか振り返らせる。  ○　今日学習したことについて、感じたことや学んだことを書かせる。 | ○　心の美しさへの考えを深めることができたか。  （ワークシート） |

８　評　　価

おじいさんやタヌキの相手のことを思う優しさや温かさに触れ，心と心の通い合いの美しさを感じ取り，質問等で級友の感動内容から学ぶことを通して、行為の美しさ・気高さに感動する自分の心に気付き，そのような気持ち・考えを育てることができたか。

　　＜授業前＞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　＜授業後＞

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ・人の行為に感動し，美しいと意識する　ことが，余りない。  ・自分のことが大切で，その後に人に尽　くすことができると考えている。 | ➡ | ・人の行為に感動する自分であることに気づき，　人の行為を美しいと意識できる。  ・自分のことを後にして，人に尽くしたいと思　う人の気持ちのことが分かり，美しいと思う。 |